

事業番号	事務事業名		佐伯高等学校の魅力化支援					所管課名		地域振興部中山間地域振興室		所属長名	小田 和歳	
	方向性	2	人を育む					係・グループ名		中山間地域振興係				
	重点施策	3	未来を担う人づくり					根拠法令等		廿日市市教育振興基本計画				
	施策方針	2	地域と学校の協働による創造性豊かな子どもの育成					基本事業						
予算科目	会計	01	款	02	項	01	目	11	事業1	事業2	経・臨	予算上の事業名		
	一般会計		総務費		総務管理費		コミュニティ振興費		009	55	臨	中山間地域振興事業(佐伯高等学校分)(政策)		

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☒ 単年度繰返し ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度) ☐ 単年度のみ	佐伯高等学校が取り組んでいる地域に根ざした教育活動や部活動の充実などによる自校の魅力化の取組を地域と連携して支援することにより、在校生数80名以上を維持して、同校の存続を図り、中山間地域の中学生の進学先確保・将来の担い手育成・地域力の維持向上をめざすため、次のような取組を実施している。 ・佐伯高等学校の魅力発信 ・通学費補助金、下宿費補助金、下宿改修費補助金の交付 ・公営塾の開催 ・「広島県立佐伯高等学校を応援する会」への助成	平成26年2月に広島県教育委員会が作成した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」で、2年連続して生徒数が80人未満の高校については統廃合の検討を行うことが示された。平成26年度から「佐伯高等学校活性化地域協議会」で取組案等の協議を重ね、支援を開始した。 ※「佐伯高等学校活性化地域協議会」は、平成28年度に「佐伯高等学校を応援する会」と統合し、現在は、「佐伯高等学校を応援する会」で協議を重ねている。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
佐伯高等学校の魅力発信 公営塾の開催 補助金の交付	→ ア 公営塾の開催回数	回	目標 実績	70 44	70 72	90 73	90	90
	→ イ Facebookでの情報発信回数(佐伯高等学校及び市)	回	目標 実績	40 25	40 77	40 58	40	
	→ ウ オープンスクール開催回数	回	目標 実績	1 1	1 2	2 2	2	
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
佐伯高等学校の生徒 中学生	→ ア 佐伯高等学校の生徒数(5月1日現在)	人	見込 実績	80 90	80 76	80 91	90	90
	→ イ オープンスクール参加者数(中学生)	人	見込 実績	40 44	50 87	70 93	70	70
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画の小規模校の存続基準である、「全校生徒数が80名以上」を上回ること。	→ ア 佐伯高等学校の生徒数(5月1日現在)	人	目標 実績	80 90	80 76	80 91	90	90
	→ イ 地元中学校(佐伯中・吉和中)からの進学率(地元中出身生徒数÷昨年度地元中学3年生生徒数)	%	目標 実績	30 35	35 28	35 26	35	35
	→ ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
地域への理解・関心を持つ	→ ア 今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合	%	目標 実績	50 -	51 42.7	52.0 41.3	53.0	54
	→ イ		目標 実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和1年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	前年度比	令和5年度(予算)
事業費(A) (円)		5,613,550	5,547,866	15,411,850	15,842,652	430,802	25,863,000
財源内訳	国庫支出金					0	
	県支出金	163,000	153,000	191,000	295,000	104,000	790,000
	市債					0	
	その他特財					0	
	一般財源	5,450,550	5,394,866	15,220,850	15,547,652	326,802	25,073,000
業務延べ時間(時間)		2,300	2,300	2,300	2,300	0	
人件費(B) (円)		10,534,000	9,917,000	10,097,000	9,810,000	-287,000	0
トータルコスト(A+B)		16,147,550	15,464,866	25,508,850	25,652,652	143,802	25,863,000
主な支出項目			令和4年度(決算)		備考		
広島県立佐伯高等学校活性化支援事業補助金			2,490,266	円			
佐伯高等学校下宿費補助金			9,540,000	円			
佐伯高等学校通学費補助金			978,300	円			
公営塾学習支援員報酬費等			740,086	円			

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
地元中学生の人数が減っている。 また、佐伯高等学校の魅力のひとつである女子硬式野球部が、事業開始時期に比べ近隣の県や県内の高校に相次いで新設されている。 国公立大学合格者を3年連続で輩出するなど、公営塾や高校が取り組む学力向上プロジェクトの成果が出ている。	平成27年度～ 活性化支援事業補助金の開始 平成28年度～ 下宿費補助金の開始(R3補助額拡充・R4補助対象者拡充) 平成29年度～ 佐伯高校魅力化担当地域支援員の任用の開始・通学費補助金の開始(R4補助率拡充) 平成30年度～ 公営塾の開始(R3開催日拡充) 令和元年度～ 入学者確保のための連携会議の開催 令和元年度～ 下宿改修費補助金(令和4年度補助率拡充)	・統廃合されると地域の活力がなくなるため、存続に向けて、もっと支援していくべきである。(住民) ・SAEKI QUESTなどを通じて、地域ともっと連携していきたい。(住民) ・県外などから佐伯高校を選んでくれる生徒のためにも寮の整備が必要。(議会)

5 事業評価(令和 4 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	地元中学生の進学先の確保、地域の将来の担い手育成及び地域力の維持・向上を図るために地域に於いてはならない高校である。
	②市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せすることはできないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」において、各学校が学校関係者、所在する市町及び市町教育委員会等で構成する「学校活性化地域協議会」を設置して、活性化策を検討・実施して、80人以上となることをめざすことが求められており、市が関与することは妥当である。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	中山間地域で唯一の高校であり、地元中学生の進学先の確保、地域の将来の担い手育成及び地域力の維持・向上を図るために存続させていく必要がある。
	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☒ 向上余地がある ☐ 目標水準に達している	理由 説明	佐伯高等学校の魅力地域内外に浸透させるため、効果的な魅力発信をする必要がある。安定的な志願者確保のため、県外を含む部活及び地元中学生の両者へ向けた情報発信をしていく必要がある。
効率性 評価	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	魅力化支援の取組廃止により、生徒数が80人未満の状態が継続し、佐伯高等学校が統廃合された場合、地域外への転出が加速し、地域力の衰退が危惧される。
	⑥類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	広島県の「魅力ある高校づくり事業」や、同窓会、教育後援会(保護者会)による支援を活用しており、関係団体と連携して取り組んでいる。 「佐伯高等学校を応援する会」と連携して役割分担をしながら、魅力化支援を行っている。
公平性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	80名確保のため、魅力発信や公営塾の開催などを継続して実施していく必要があり、事業費の削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	地域や高校と連携・役割分担して取り組んでおり、人件費の削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	公営塾の開催並びに下宿費、通学費、下宿改修費及び活性化支援事業の補助などを通じて、佐伯高等学校のさらなる魅力化を図り、同校の魅力を発信して、地域を支えるかけがえのない資源である同校を存続させていくものであり、一部の受益者に偏った取組ではない。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り	地域支援員の配置、公営塾の開催、高校の魅力発信、各種補助金の交付など必要な支援を行ったが、昨年度、志願者倍率が高かったことや、入試制度の変更などにより志願者は減少し、入学者を定員である40名確保することができなかった。 新たな下宿受入先を2軒確保し下宿生の受入はできたが、安定的な下宿生の受入のため、必要に応じて新たな下宿先を確保していく。 中学生を対象とした公営塾を、夏季・冬季休業に加え、定期テスト前にも実施した。																						
B 有効性	☐ 適切	☒ 改善の余地有り																							
C 効率性	☒ 適切	☐ 改善の余地有り																							
D 公平性	☒ 適切	☐ 見直しの余地有り																							
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																						
☐ 拡充	☒ 現状維持	今後の改革改善案 学校の取組と連携した公営塾の実施、特色ある教育活動(授業・SAEKI QUEST等)の支援やPR動画作成など、現在、すでに行なわれている内容をより学校と連携した精度の高いものとする。 安定的な志願者確保のため、必要に応じて新たな下宿先の確保を行う。		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (廃止・休止、完了の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
							コスト																		
		削減	維持		増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
☐ 目的再設定	☐ 改善																								
☐ 休止・廃止	☐ 完了																								
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
高校との連携を強化し、継続して行っていく必要がある。 また、下宿先は、下宿の掘り起こしを行う必要がある。																									